今回インタビューする日比谷さまは、CanCan 出身の犬の里親として、現在東京で 2 匹の犬と暮らしています。
日比谷さまがはじめて CanCan 出身の犬の里親となったのは、2005 年のことです。以後、約 15 年以上にわたり合計で 5 匹の犬を引き取っているベテランオーナーさまです。
そんな日比谷さまに、里親になる良さや楽しさ、そのほか里親としての心構えや注意点などをうかがってみました。

＜用語について＞
※オーナー・・・リタイア犬などの里親のこと
※リタイア犬・・・子犬を生むためにがんばってきて引退した犬

【日比谷さま家族構成】
・両親と祖母の 4 人暮らし
・犬･･･エマちゃん（5 歳・メス・ミニチュアダックスフンド・茶色）、マリちゃん（0 歳・メス・ミニチュアダックスフンド・ブラックタン）

【日比谷家が CanCan から購入または引き取った歴代の犬たち】
2001 年　フーリオくん･･･CanCan で購入（オス・ミニチュアダックスフンド・レッドダップル・2001～2020 年）
2001 年　チェスくん･･･CanCan で購入（オス・ミニチュアダックスフンド・シルバーダップル・2001～2016 年）
2005 年　ドラゴンくん･･･パパとして活躍した犬（オス・ミニチュアダックスフンド・シルバーダップル・1996～2010 年）
2011 年　レイナちゃん･･･ママ候補の犬（メス・ミニチュアダックスフンド）
2013 年　フレサちゃん･･･ママ候補の犬（メス・ミニチュアダックスフンド）
2016 年　エマちゃん･･･ママ候補の犬（メス・ミニチュアダックスフンド・レッドダップル）
2020 年　マリちゃん･･･ママ候補の犬（メス・ミニチュアダックスフンド・ブラックタン）

里親として、焦らずゆっくり待ってあげることが大切

Q.日比谷さまは、現在まで CanCan 出身の犬を合計 5 匹引き取ったとうかがいました。そもそもなぜ CanCan 出身の犬のオーナーになったのでしょうか？

最初に CanCan 出身のリタイア犬を引き取ったのが 2005 年です。シルバーダップルのミニチュアダックスフンドで、名前はドラゴンでした。我が家に来るまでドラゴンはパパとして CanCan でがんばってきていた犬で、当時 5 歳でした。

なぜ、ドラゴンを引き取ることになったかと言うと、CanCan のオーナーである長谷川さんから、「リタイア犬の里親になりませんか？」というお話をいただいたからです。

我が家では、既に CanCan で購入した 2 匹のダップルのミニチュアダックスフンド（フーリオとチェス）を飼っていました。当時私が住んでいた家は、CanCan のある大倉山から近かったこともあり、フーリオとチェスのトリミングのために、毎月 CanCan に通っていました。

オーナーである長谷川さんとは、行くたびに顔を合わせ、犬のことを何でも相談していました。ブリーダーとして経験豊富な長谷川さんのアドバイスは明確でわかりやすい。私や犬たちにとって、長谷川さんはなくてはならない存在でした。

そんな信頼できる長谷川さんからリタイア犬の里親になるお話をいただいた時、私は迷うことなく、お引き受けすることにしました。

フーリオくん、ドラゴンくん、チェスくん

ドラゴン君が来た時の様子はどうでしたか？　既にいた 2 匹のワンちゃんとすぐに馴染みましたか？

実はフーリオとチェスは、ドラゴンの息子たちにあたる犬。つまり、ドラゴンとは親子関係にありました。犬たちがそれを認識していたか定かではありませんが(笑)
CanCan 出身の犬は、人間の言うことをよく聞くし、新しいこともすぐに覚えられる賢い犬が多いのです。とはいえ、成犬になってから引き取られたドラゴンは、既にいた 2 匹と馴染むまで時間がかかりました。

無理もありません。フーリオとチェスは、既にそれぞれの生活リズムができあがっていたわけですし、そこに別の犬が突然現れたのですから戸惑うのも当然のこと。
一方ドラゴンも、急に知らない家に連れてこられ、しかも知らない犬が 2 匹もいる。ドラゴンだって混乱するでしょう。

その証に、我が家に来てしばらくの間、ドラゴンはほとんどごはんを食べませんでした。既にいた 2 匹の犬と対立することもあり、時には喧嘩なり、血が出る騒ぎになったこともありました。

当時我が家は、夫と 2 人暮らし。ドラゴンが我が家に来た最初の頃は、私たちにも警戒心を示していました。でも私たちは、長谷川さんのアドバイス通り、焦らず時間をかけながら徐々にその距離感を縮めることに専念しました。

結果、2〜3 カ月経った頃には、ドラゴンは我が家で普通に生活ができるようにまで慣れてくれました。とはいえ、本当にお互いの心がつながるまでは 1 年くらいかかったと思います。
とにかく、焦らず、ゆっくり待ってあげることが大事なのは確かです。

元気に走るチェスくん

多頭飼いは、犬にとっても飼い主にとっても、良いことの方が上回る

日比谷さまのお宅では、当時ドラゴンくんを含め 3 匹目の犬を飼っていたということですね。多頭飼いの良さや大変さにはどのようなものがありますか？　また、2 匹飼う場合と、3 匹飼う場合の違いもあれば教えてください。

多頭飼いの良さは、なんと言っても犬同士で遊んでくれることです。じゃれあったり、家の中を駆けずり回ったり、まるで運動会をしているみたいです(笑)。そんな姿を見ると、私たちまで楽しい気持ちになり、「多頭飼いしてよかった」と実感します。

反対に、大変なこともたくさんありますよ。

まずは移動の時です。
2 匹なら両腕をつかって一度に抱えられますが、3 匹となると、いっぺんに抱えるのは不可能です。ですので、3 匹目が来てからは、移動の手段がほとんど車になりました。
3 匹以上飼うなら、車はあった方が良いです。

次に、壁や家具のキズが増えることです。
ミニチュアダックスフンドは、壁や家具などをかじる傾向があるようで、頭数が増えれば、必然的にかじられる箇所も増えます。我が家の壁や家具には、歴代の犬たちがかじった跡がたくさん(笑)。犬を飼うなら、覚悟すべきですね。でも、かじられた跡は、歴代の犬たちが元気に過ごしていた証として、今では微笑ましい思い出です。

さらに、お金もかかることです。
犬がたくさんいると、餌代やトイレのシート代はもちろんですが、病気になった時の医療費の負担もその分増えます。もちろん大きな病気をすれば、何十万円というお金を支払うこともざらです。民間の保険に入る手もありますが、成犬から加入すると保険料が高いことが多いですし、既往症があると、保険に入れない（もしくは担保されない）こともしばしば。

多頭飼いはこういった大変さはありますが、犬にとっても飼い主にとっても、良いことの方が多いと思います。

一人暮らしで犬を飼うなら、サポートをしてくれる人がいると安心

その後日比谷さまはお引っ越しをされ、ワンちゃんたちの住む環境が変わったそうですね。その時のことを教えていただけますか？

実は 2007 年に私たち夫婦の離婚が決まり、引っ越すことになりました。
私は、都内のマンションで一人暮らしをすることになりました。さて 3 匹の犬をどうするか。夫との話合いと同時に、長谷川さんにも相談しました。そうして決めたのは、3 匹のうち、私がドラゴンとチェスを、夫がフーリオを引き取ることでした。

その後引っ越しをして、新しい生活がスタート。引っ越し先は、私の実家の近くだったこともあり、私が出張する時は実家に犬たちを預け、母が面倒を見てくれました。

しかし、犬たちにとっては環境の変化が負担となり、実家に連れて行くとごはんをあまり食べてくれなかったそうです。母はそんな犬たちをかわいそうだと思い、私が出張をする際は、母が私の家に来て面倒を見てくれるようになりました。

一人暮らしの人が犬を飼う場合は、できるだけサポートをしてくれる人がいた方が良いでしょう。私の場合は、母のサポートがとても助けになりました。

ママ候補犬のオーナーは CanCan と密に連絡を取り合う必要がある

しばらくして、2 匹の犬とともにご実家に引っ越しされたそうですね。その後、さらに 2 匹のママ候補の犬を引き取ることになったそうですが、経緯を教えていただけますか？

実家に引っ越してからしばらくして、CanCan 出身のリタイア犬のドラゴンが、14 歳で息を引き取りました（2010 年）。ドラゴン亡き後、我が家にいる犬はチェスだけになってしまい、心なしかチェスも寂しそうに見えました。

2011 年になり、長谷川さんからママ候補の犬のオーナーになる話をいただき、受けることにしたのです。我が家に来たのは、レイナという 9 か月の犬でした。

2010 年に天国へ旅立ったドラゴンくん（左）

ママ候補の犬を引き取った場合の生活について教えていただけますか？

ママ候補として預かった子犬と、自分たちで購入した子犬との飼い方に大きな違いはなく、両者とも普通に飼い犬として暮らすことになります。

違いがあるのは、妊娠と出産時です。ママとしての役割を果たすために、妊娠と出産の時に合わせて、CanCan と密に連絡を取り合ったり、CanCan に連れて行ったりする必要があります。
また、ママ候補の犬が実家（CanCan）を忘れないよう、月 1 回程度 CanCan へシャンプーしに行くことが、オーナーになる条件となっています。

ママ候補の犬が、実際にママになる過程は次の通りです。
ママ候補の犬は、生理が来ると、CanCan に報告します。すると CanCan の方でお見合い相手を見つけ、お見合いの日取り（交配日）が決められます。私たちはその日に合わせ、ママ候補の犬を CanCan に連れて行きます。お見合いは約 1 週間行われ、私たちは約 1 週間後に、ママ候補の犬を CanCan に引き取りに行きます。

その結果、妊娠していれば、周産期までは普通に家で過ごし、出産日が近づいたら再び犬を CanCan に連れて行きます。

ちなみに出産のために犬を CanCan に預けることを、私たちは「里帰り」と呼んでいます。
里帰り期間はおおよそ 2 ヶ月くらいです。
里帰り中は、CanCan が責任を持って預かってくれることになり、子育てが終わった頃に、また引き取りに行くという流れです。

レイナは我が家にいる間に 3 回出産し、その都度、CanCan へ行き来しました。また、2013

年には、同じくママ候補としてフレサというメスの犬を預かることになりました。実はフレサは、レイナが 3 回目に出産した子犬のうちの 1 匹でした。

その時点で我が家には、チェス、レイナ、フレサの合計 3 匹が暮らしており、私たち家族とともに平穏な毎日を過ごしていました。

その後、日比谷さまが病気で長期の入院を余儀なくされたとお聞きしました。当時の状況を教えていただけますか？

2015 年 9 月に、動脈瘤破裂重症くも膜下出血で倒れたことがあります。一命は取り留めたものの、長期期間の入院が必要でした。
私の入院により、同居の母は、私の看病と犬のお世話の両方をすることになったのですが、高齢の母にとって、それら二つをこなすには限界があります。母は早いタイミングで長谷川さんに相談したそうです。結果、レイナとフレサはいったん CanCan に戻ることになりました。残念でしたが、それ以外方法はありませんでした。

なおその後レイナとフレサは別の家に預かったもらうことになり、今もなお幸せに暮らしているそうで、とてもほっとしています。

8 ヶ月後の 2016 年 4 月に、ようやく私の退院が決まりました。
久しぶりに家に帰った私を出迎えてくれたのはチェスです。喜んで出迎えてくれると思いきや、様子が少し変。おそらく私の異変を感じたのでしょう。

とはいえ、少し経つといつものチェスに戻り、私は自宅でリハビリをしながらチェスとゆっくり過ごしていました。

しばらくしてから、退院の報告をするために CanCan へ行くと、生まれて間もないかわいいミニチュアダックスフンドがいました。聞くとそのワンちゃんは、かつて我が家で預かっていたフレサの娘で、将来ママとして活躍する予定とのこと。長谷川さんから「フレサたちは戻れないから、今度はこの子を預かってもらえませんか？」と声をかけていただきました。ちょうど我が家で飼っている犬はチェスのみだったこともあり、子犬を引き取ることにしました。こうして 2016 年 9 月、子犬が我が家にやってきました。名前はエマ。

その頃チェスは既に 14 歳の高齢犬だったこともあり、入退院を繰り返していた状態でした。そして同月、チェスは天国へ旅立ちました。

2016 年に天国に旅立ったチェスくん

その後エマちゃんは、将来のママ候補としてどのような生活を送ったのでしょうか？

私自身ママ候補の犬を預かることは、過去にも経験していたため、特に苦労はありませんでした。しかもエマは、穏やで人懐っこい性格であるうえに、トイレなどのしつけも楽にできた犬でした。

エマちゃん

エマとの生活も、以前ママ候補の犬を預かっていた時と同じです。生理が来ると CanCan に連絡。するとお見合いの日が決められ、その日にエマを CanCan に連れて行きます。約 1 週間後にエマを引き取り、妊娠していれば、周産期まで家で過ごし、出産が近くなると CanCan に連れて行きます。出産と子育ての間は CanCan で過ごし、子育てが終わる頃に引き取りに行きます。

CanCan の長谷川さんとは、既に長いお付き合いをさせていただいたので、エマの妊娠や出産時には、「阿吽の呼吸」で進められるようになっていました。

そして 2021 年の秋からは、ママ候補の犬を、もう 1 匹預かっています。マリという名前のミニチュアダックスフンドです。マリも今後、ママとして活躍する予定です。

マリちゃん

CanCan の犬は賢くて丈夫な犬が多い。これからもサポートを続けます！

「リタイア犬のオーナー」と「ママ候補の犬のオーナー」の 2 パターンを経験された日比谷さんから見た、CanCan の犬の良さと、今後里親や繁殖犬のオーナーになることを検討されている方へのメッセージをいただけますか？

CanCan 出身の犬たちは、賢い犬たちばかりです。そんな犬たちがママやパパになり、それらの犬たちから生まれてくる子犬たちも、賢い犬の血統を受け継いでいます。

さらに、長谷川さんは、犬の骨格にもこだわっているそうで、実際に、私が今まで預かってきたすべての犬は、胴長の犬にありがちなヘルニアになることがなく、みな丈夫でした。長年お付き合いさせていただき、長谷川さんの犬に対する「こだわり」は、すべての犬たちが受け継いでいると、私は実感しています。

一方、里親や繁殖犬のオーナーになるにあたり、知っておいていただきたいことは、「里親や繁殖犬のオーナーであったとしても、お金はかかる」ということです。人間と同じで、若い犬は病気が少ないけれども、歳をとるにつれて病気もかかりやすくなります。

もし、費用の負担を抑えるために里親や繁殖犬のオーナーになることを希望される方がいたとしたら、それは違うということをお伝えします。
むしろ、費用を抑えたいなら、子犬から飼った方が良い場合もあります。

それでも、私が CanCan 出身の犬を預かるのは、CanCan の犬が大好きだからです。穏やかでお利口で、しかもみんなお顔がかわいい。これからも、オーナーという立場で CanCan の犬との関わりは、続けて行きたいです。

日比谷さま、エマちゃん、マリちゃん

注意：リタイア犬や将来のママ候補の犬を引き取るには一定の譲渡料がかかります。